

鹿子木さんmtg

2022.02.10.
山本 寛樹

砂原さん：参加者

- 参加者：40名

- 手続き

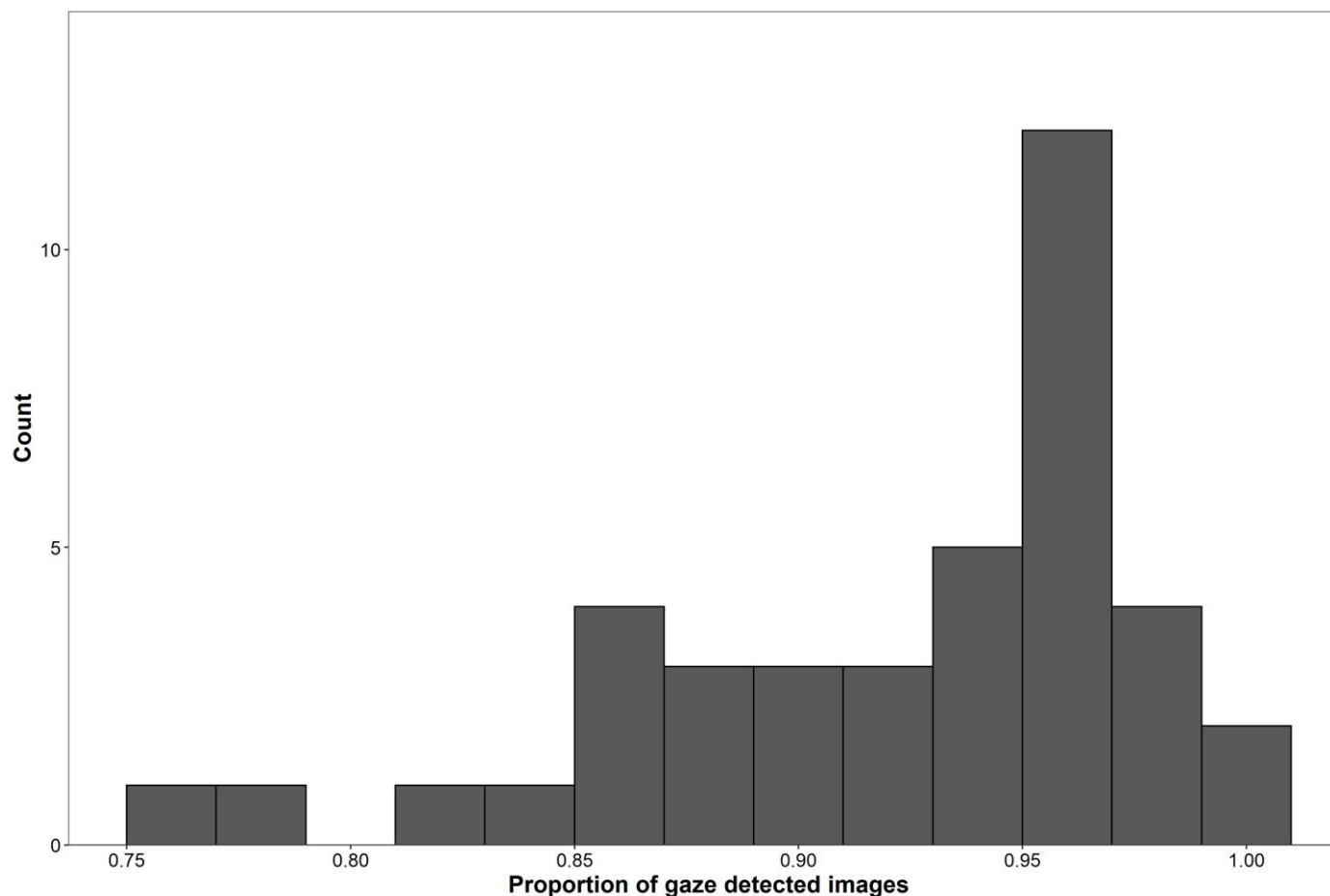
- 20分の自由遊び
- MM（総発言数における「心に関する適切なコメント」の割合（%）を計測）
 - ✓ 「心に関するコメント」は「心に関する適切なコメント」と「適切でないコメント」に分類される。
- Tobii Glassesで視野と注視点を記録
 - ✓ 視野に乳児の顔が映った場合の顔への注視の有無を評価

- 他に5名を以下の理由により除外

- 顔が一度も検出されなかった
- Tobii Glassesを怖がって泣いてしまい、実験中止
- GazeSampleが56%だった(Gaze Sample70%以上を参加者として設定)
- GazeSampleが44%だった(Gaze Sample70%以上を参加者として設定)
- キャリブレーション失敗・GazeSampleが21%だった(Gaze Sample70%以上を参加者として設定)

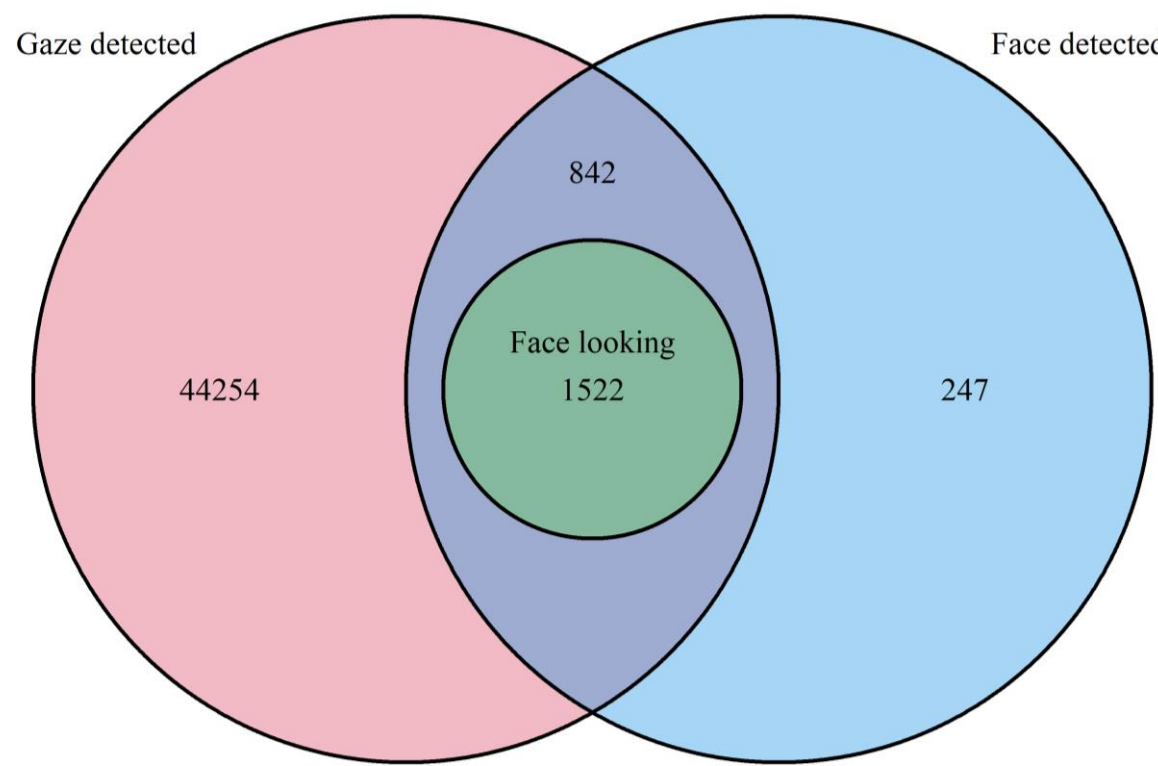
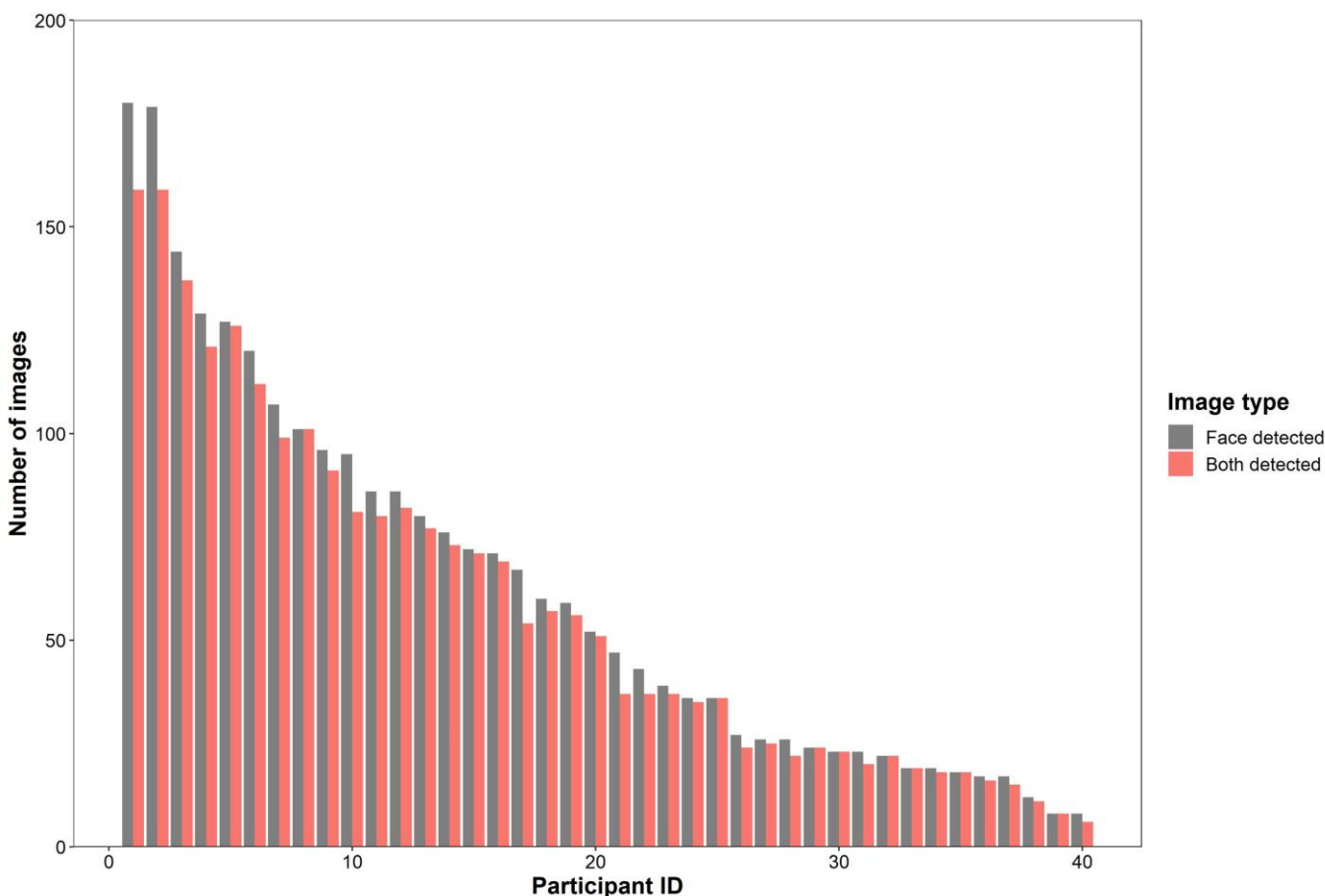
砂原さん：記述統計（視線計測）

- 全画像において、注視点を記録できたフレームの割合
 - ・視線計測の精度は問題なさそう



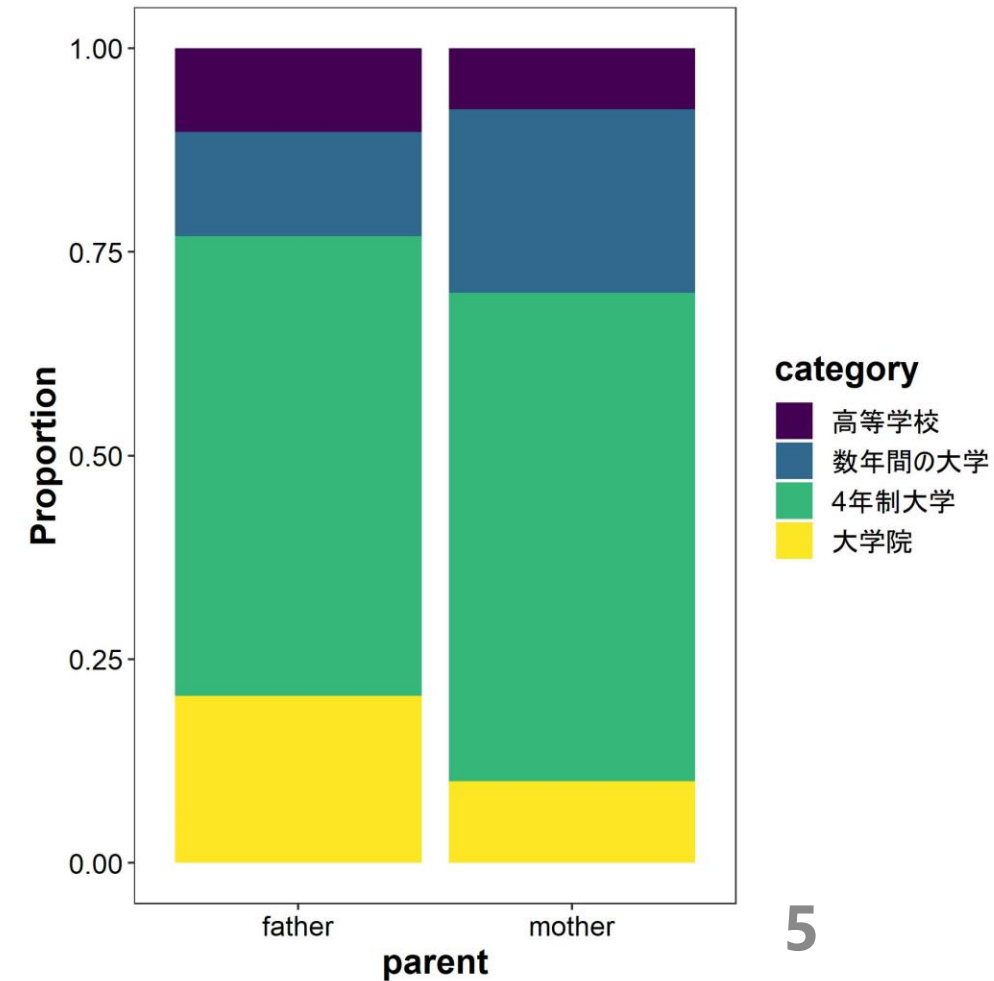
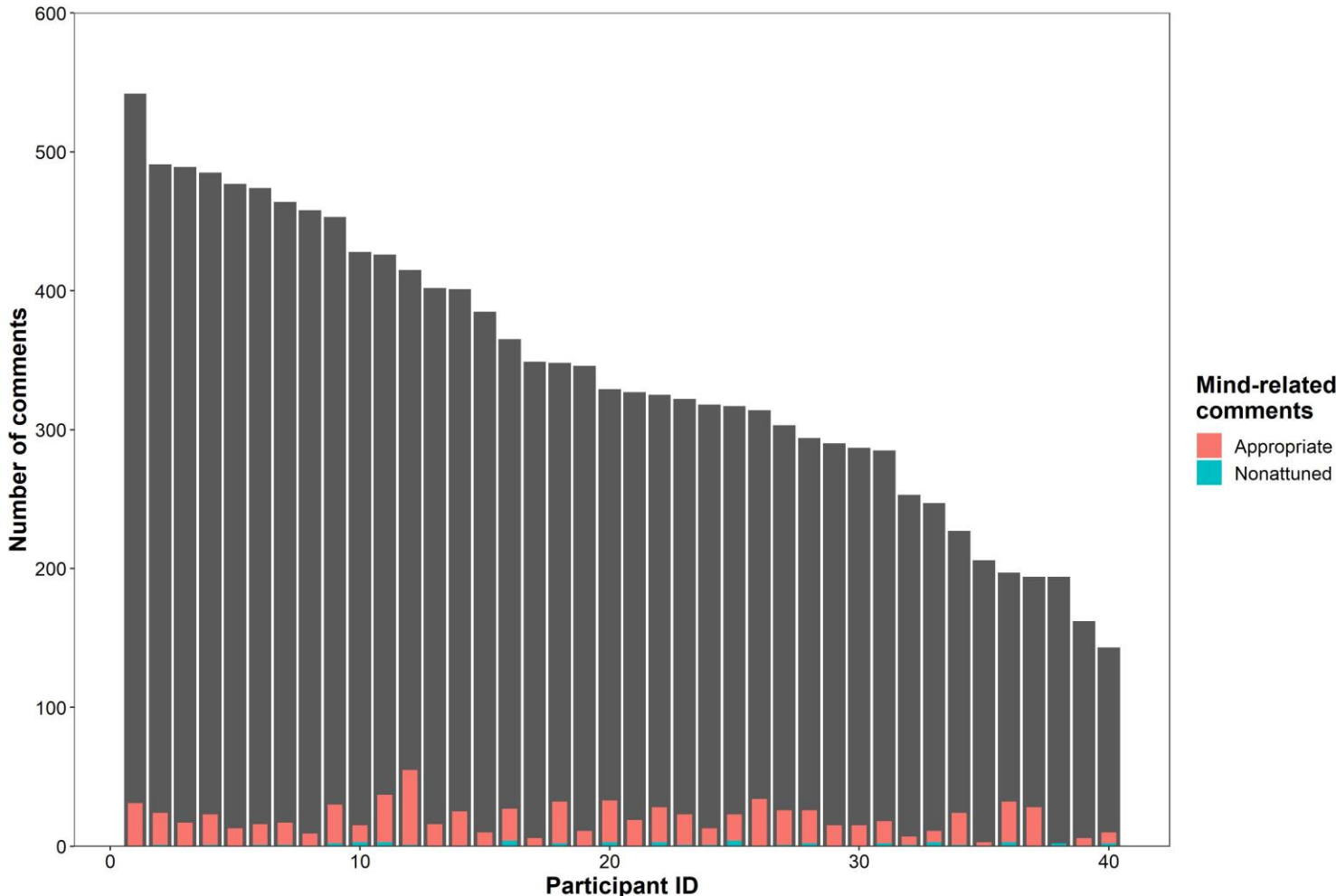
砂原さん：記述統計（視線計測）

- 顔を検出できた画像枚数には大きな個体差がある（8枚～180枚）
- 顔を検出できた画像≡「顔と注視点の両方が記録できた画像」ととらえてよさそう



砂原さん：記述統計（発話数・SES）

- 発話数：平均発話数は343.3発話．心に関する適切なコメント(Appropriate)は5.6%
- SES：両親とも4年生大学の出身がほとんど

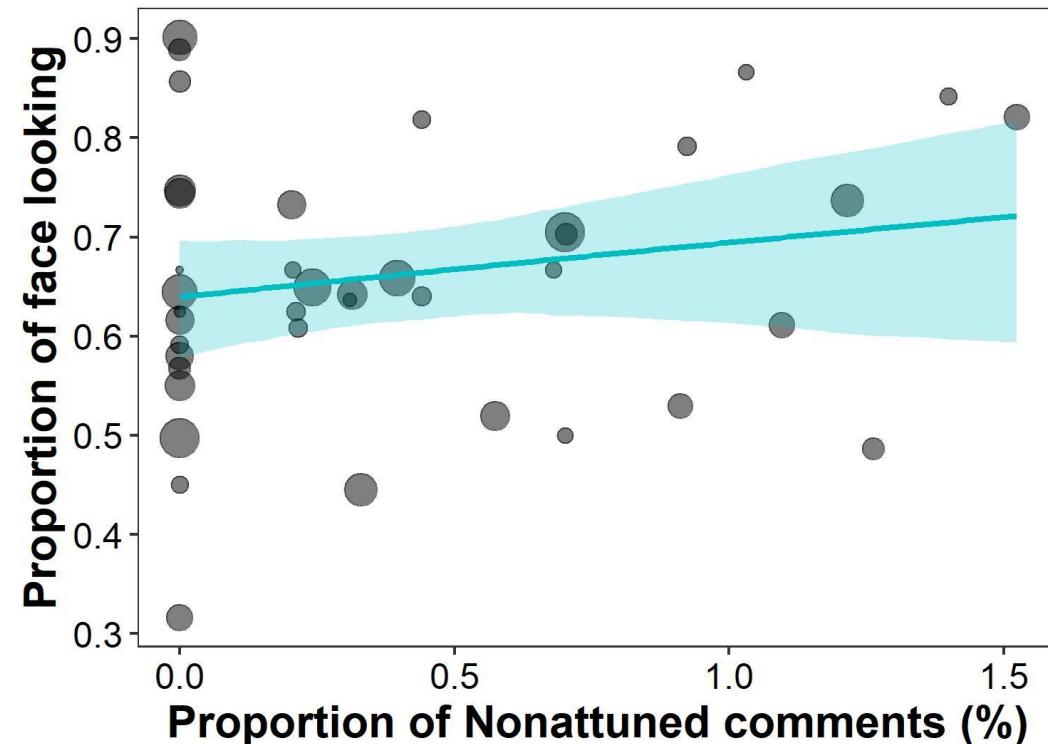
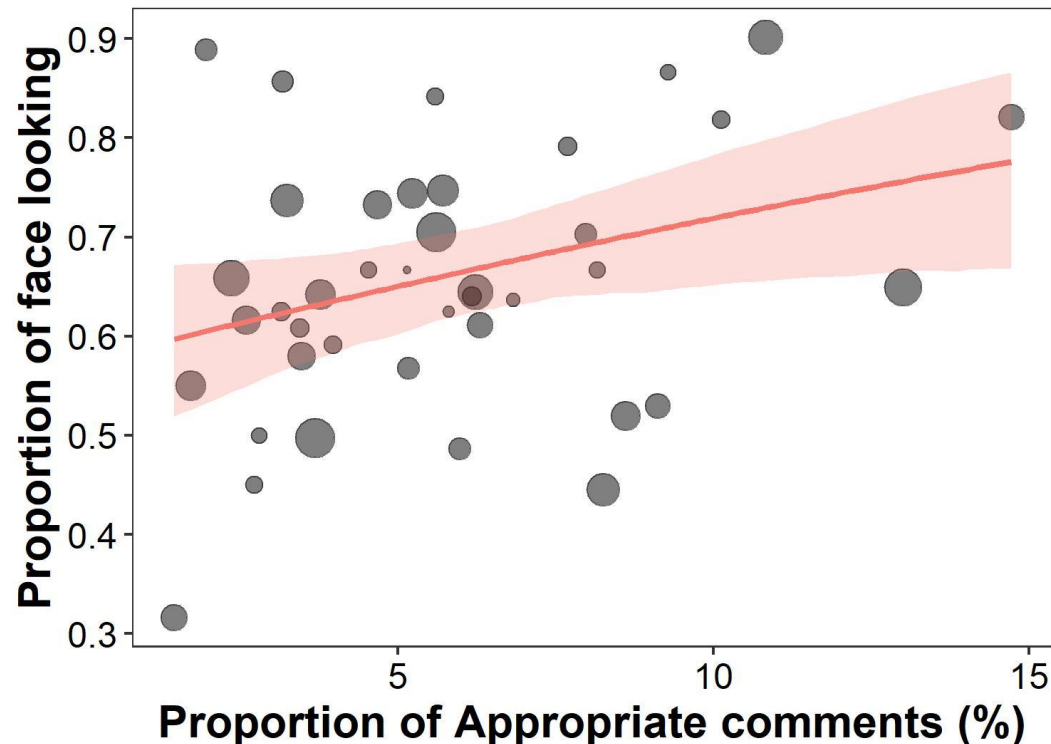


砂原さん：発話数と顔への注視

●SESを統制変数に入れて回帰

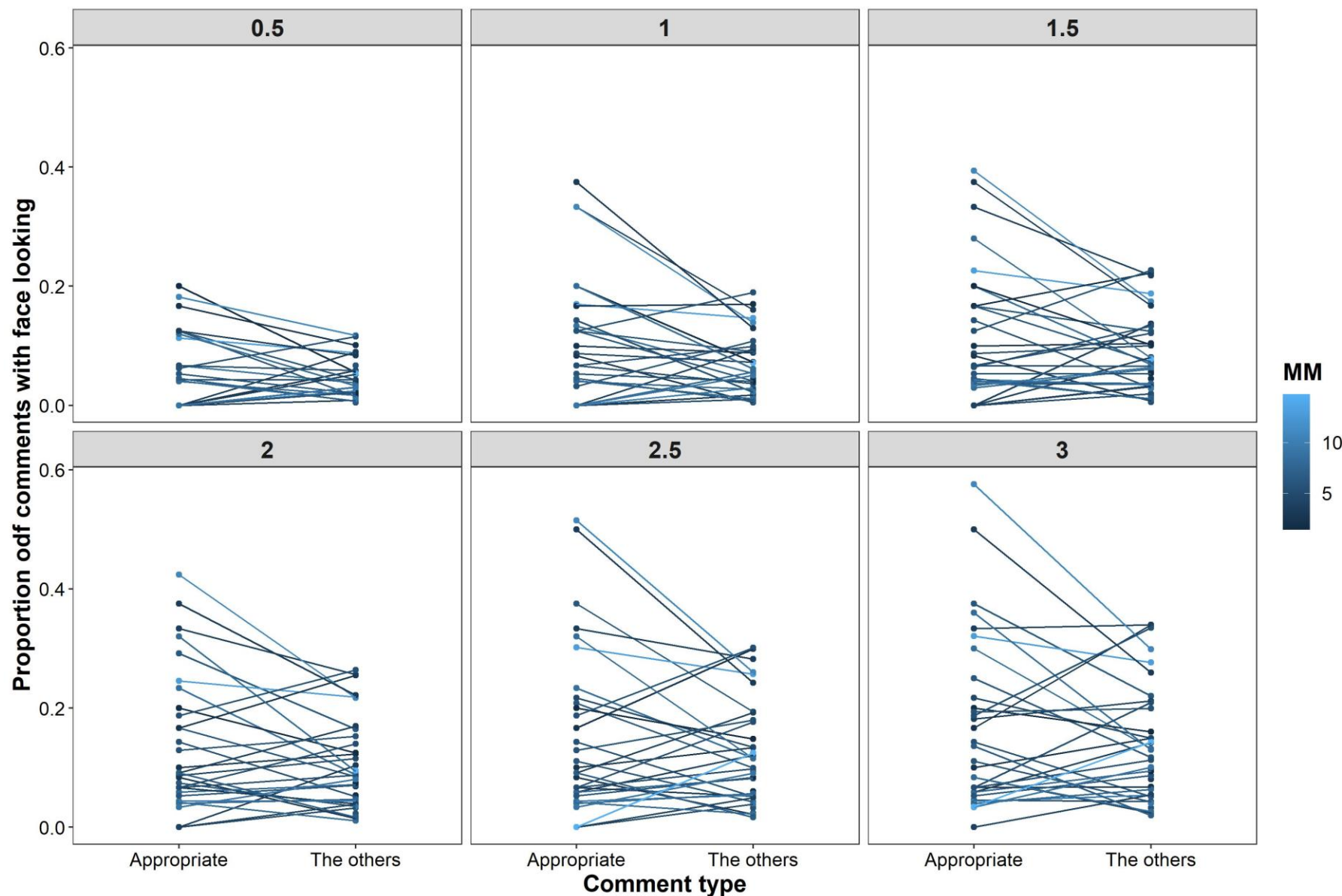
- 適切なコメントの割合(MM)の大きい親は、視野に顔が映った際、その子を注視する割合が大きい($p = 0.041$)
- 不適切なコメントの割合が顔へと注視と関連するという証拠は得られなかった($p=1$)

of images with face & gaze ● 40 ● 80 ● 120



砂原さん：発話と顔への注視の時間的近接性

- 発話数における、顔への注視が起こった発話の割合
 - 発話の分類
 - ✓ 「適切なコメント」
 - ✓ 「それ以外」
 - 時間窓
 - ✓ 発話付近1秒⇒6秒



砂原さん：発話と顔への注視の時間的近接性

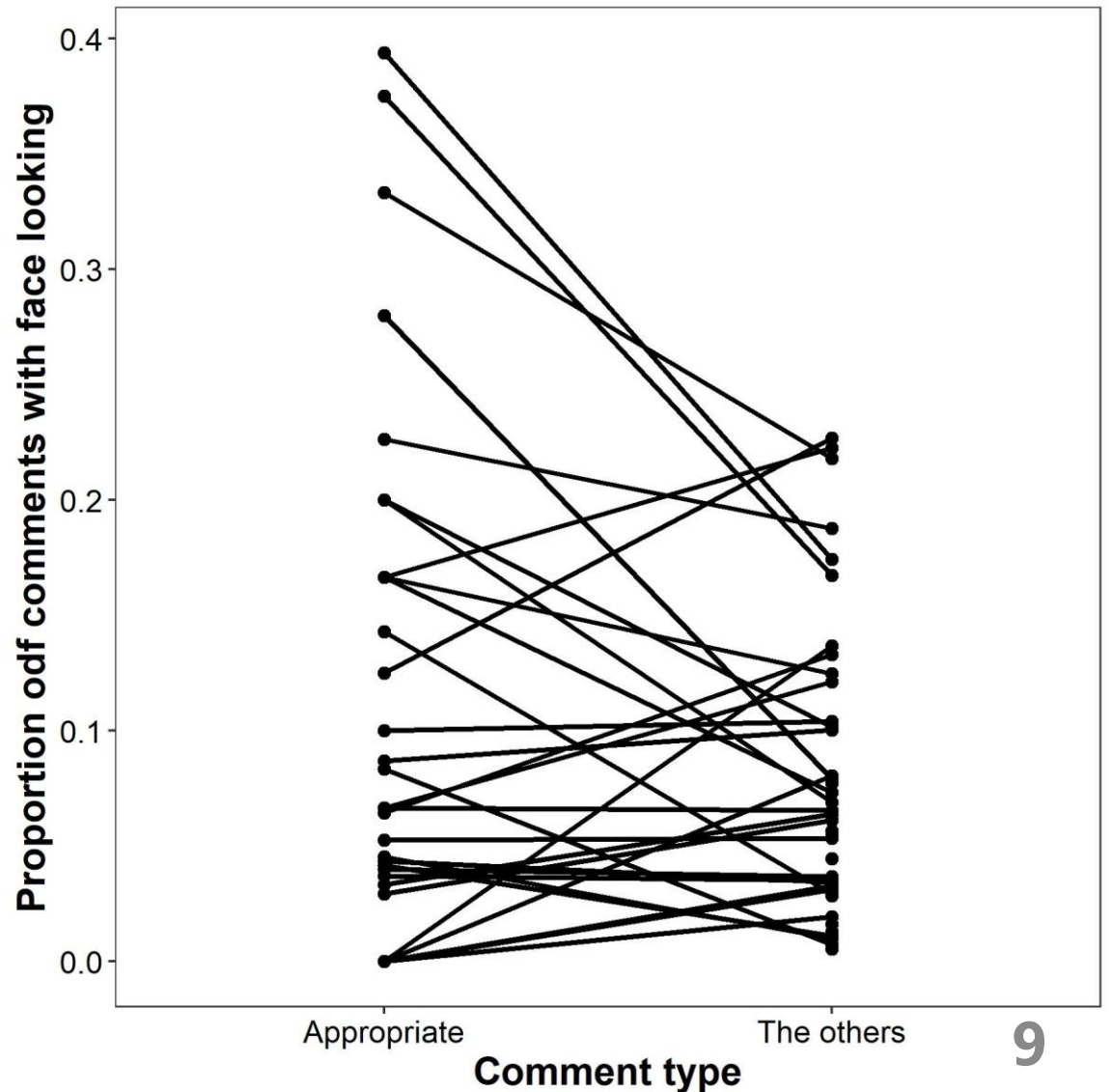
- 発話タイプの主効果がどの時間窓でも有意

- MMと発話タイプの交互作用はなし

w_size_set	Effect	Chisq	Df	Pr(>Chisq)	significant
0.5	category	4.4068573	1	0.0357947	1
0.5	MM	0.8997502	1	0.3428487	0
0.5	category:MM	0.0394349	1	0.8425896	0
1.0	category	6.0986239	1	0.0135287	1
1.0	MM	0.4383004	1	0.5079439	0
1.0	category:MM	0.1406377	1	0.7076479	0
1.5	category	5.2586835	1	0.0218375	1
1.5	MM	0.2436702	1	0.6215678	0
1.5	category:MM	3.3335382	1	0.0678807	0
2.0	category	6.2515955	1	0.0124081	1
2.0	MM	0.1516943	1	0.6969214	0
2.0	category:MM	2.3353686	1	0.1264651	0
2.5	category	4.8156606	1	0.0282023	1
2.5	MM	0.1290182	1	0.7194522	0
2.5	category:MM	0.2021851	1	0.6529629	0
3.0	category	6.4014953	1	0.0114024	1
3.0	MM	0.0776769	1	0.7804706	0
3.0	category:MM	0.5409400	1	0.4620434	0

砂原さん：発話と顔への注視の時間的近接性

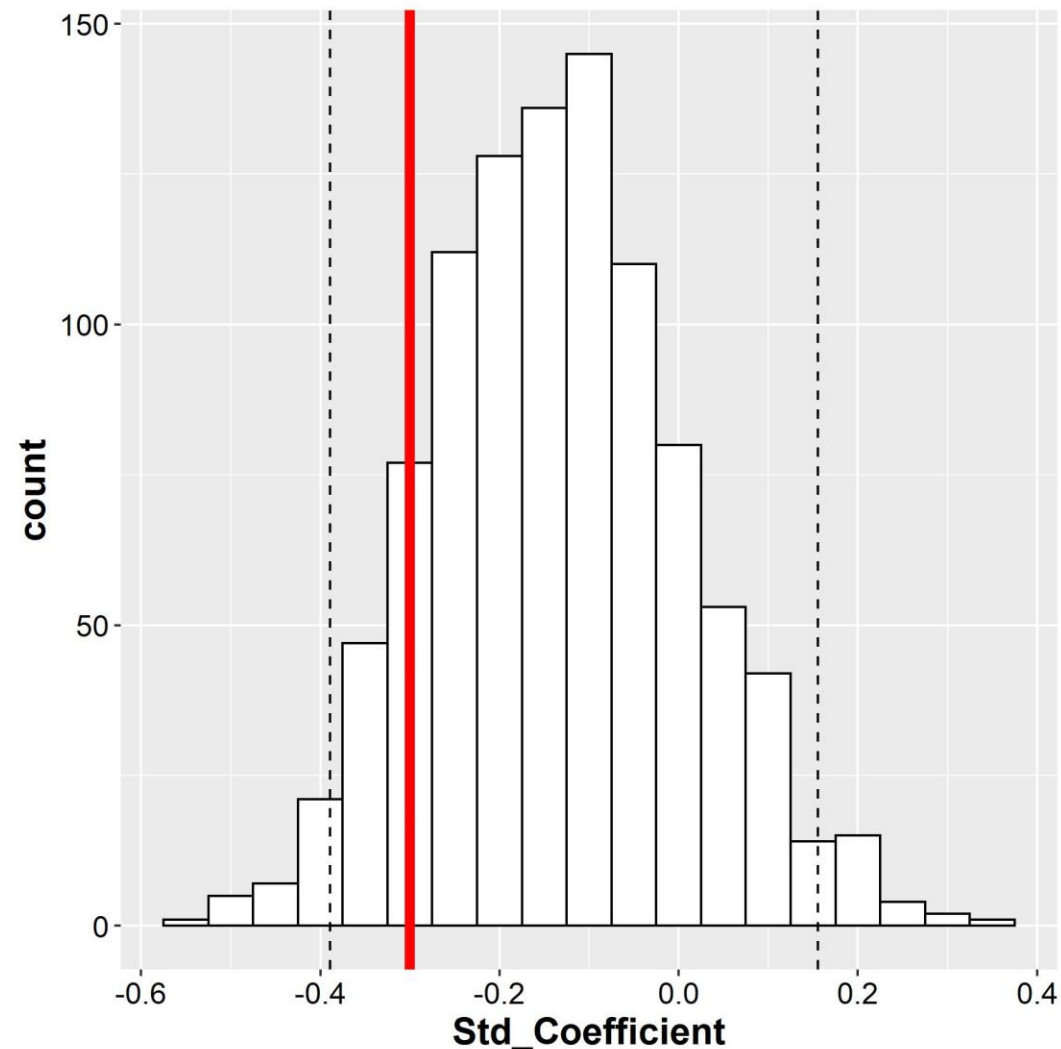
- 時間窓1.5秒：発話付近3秒
 - 適切なコメントにおける顔への注視の共起割合はそれ以外のコメントにおける顔への注視の共起割合より高い ($p = 0.0253$)



砂原さん：発話と顔への注視の時間的近接性

- コメントの種類をシャッフル

- 同じintervalで、
それぞれの発話タイプを
同じ回数発話
- ただし、順序はシャッフル
- 観測データの効果は、
ランダムイズデータでも
十分起こり得る

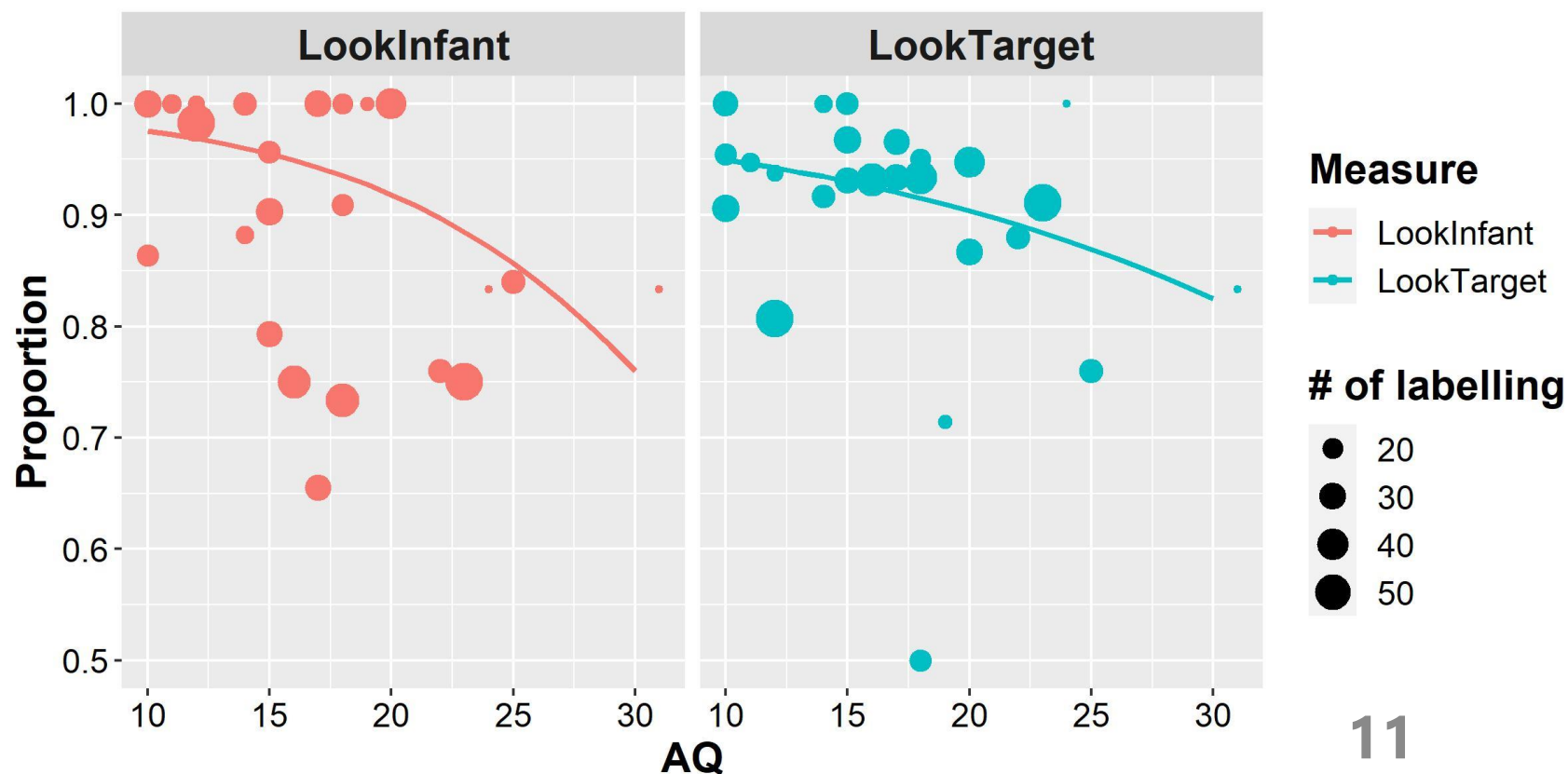


三川さん：親の注視行動

●交互作用AQ×Measureの検定力分析

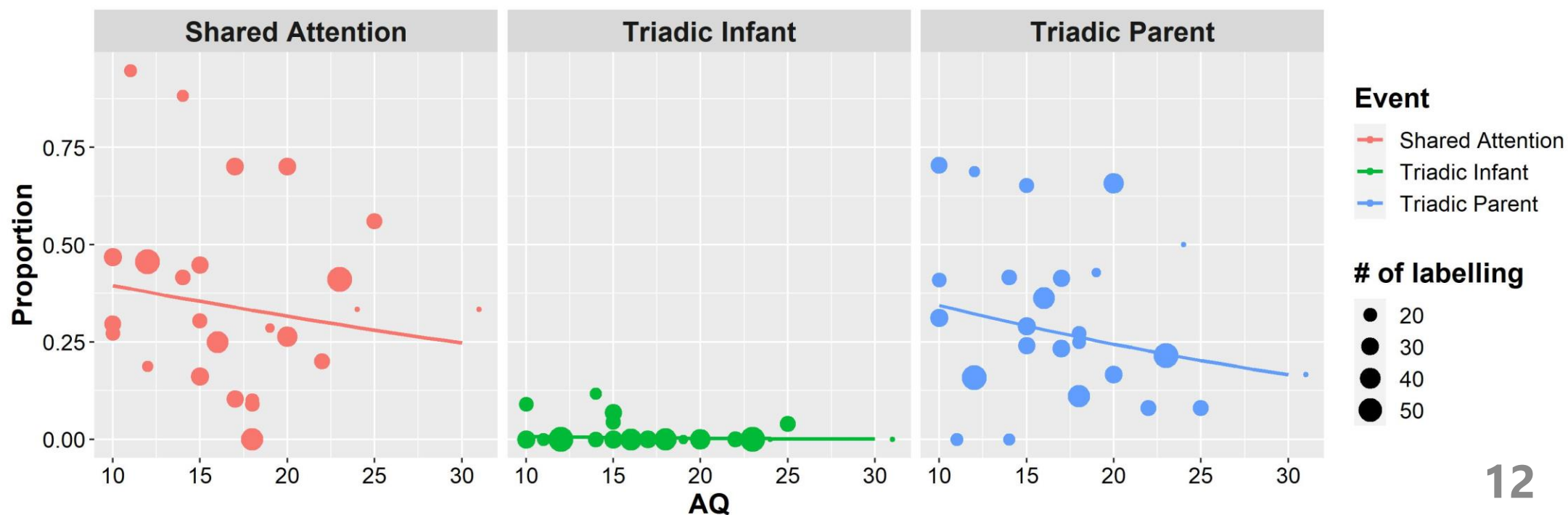
- N = 41（現在）：13%
- N = 50：20.7%
- N = 60：21.3%

●交互作用を狙うのはむずかしいか



三川さん：親子コミュニケーション

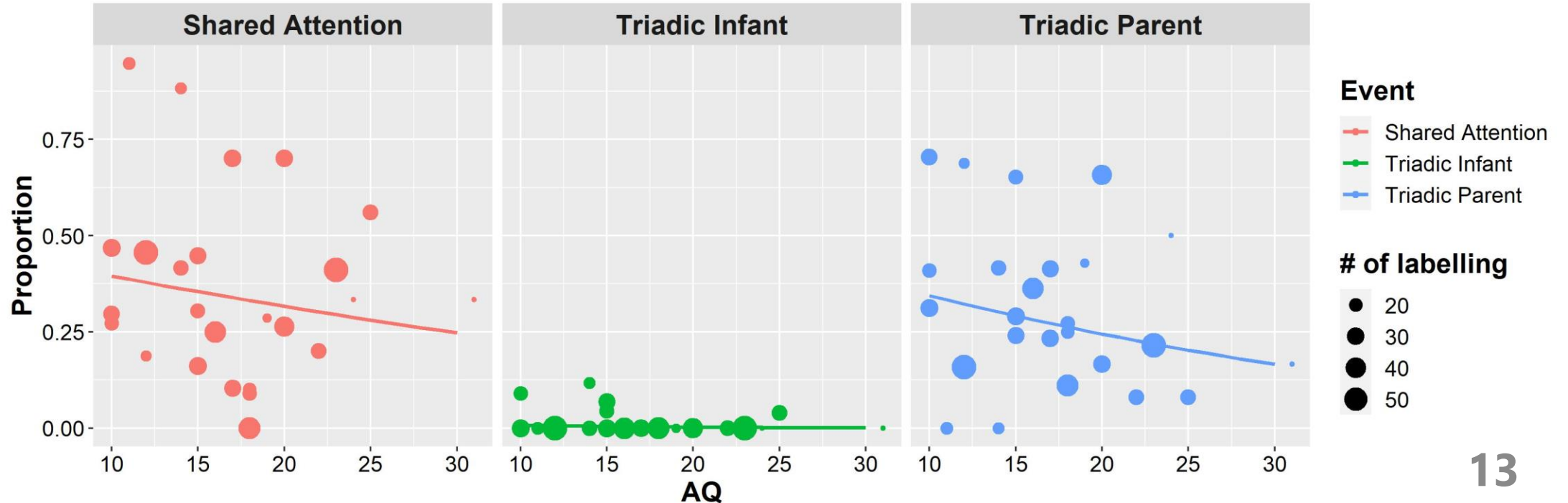
- 「乳児の物体把持」は消して，親子の視線コミュニケーションに限定



三川さん：親子コミュニケーション

●交互作用AQ×Eventの検定力分析

- N = 41（現在）：10%
- N = 50：11.8%
- N = 60：11.2%
- 交互作用を狙うのはむずかしいか



三川さん：親子コミュニケーション

●AQの主効果の検定力分析

- N = 41（現在）：43.8%
- N = 50：68.9%
- N = 60：74.9%
- AQの主効果は十分狙えそう

